

予防接種をうける前に ～疾患別の病気の特徴・ワクチンの副反応について～



ワクチン名	疾患別の特徴	ワクチンの副反応
ヒブワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ◆ヒブとはインフルエンザ菌b型のこと、口や鼻などから吸い込むことで感染します。毎年冬に流行するインフルエンザのウイルスと名前がにっていますが、まったく別物です。 ◆ヒブに感染しても症状を起こさないこともあります。一部で肺炎、(1) 細菌性髄膜炎、(2) 菌血症、(3) 喉頭蓋炎などになってしまいます。 ◆ヒブワクチンを接種することで、体のなかにヒブへの抵抗力(免疫)ができます。 (1) 細菌性髄膜炎:鼻やのどにいる菌が血液に入り、脳を包んでいる膜に炎症をおこす重い病気です。耳が聞こえにくくなったり、手足が動きにくくなったりといった障害が残ったり、命にかかわることもあります。 (2) 菌血症:細菌が血液のなかに入って高熱がでたりします。 (3) 咽頭蓋炎:のどの奥がはれてしまう病気です。空気の通り道がふさがり、息ができなくなってしまうこともあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ヒブワクチンを接種した後、接種部位が赤くなったり、はれたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。いずれも軽く一過性のもので数日中には回復します。 ◆きげんが悪くなったり、ものを食べなくなったり、熱がでたりすることがあります。 ◆きわめてまれに(A)アナフィラキシー、けいれん、(B)血小板減少性紫斑病などの重い病気にかかることもあるともいわれています。 (A)アナフィラキシー:急激なアレルギーにより、じんましんがでたり呼吸が苦しくなったりします。 (B)血小板減少性紫斑病:かさぶたをつくる働きの血小板の数が少なくなって、出血しやすくなってしまう。皮膚の下で出血して青あざがでたり、歯ぐきから血がでたりします。
小児用肺炎球菌ワクチン	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもの多くは鼻やのどに肺炎球菌をもっています。免疫力の低下などにより、菌が体内に侵入すると、肺炎、中耳炎、(1) 細菌性髄膜炎や(2) 菌血症などをひきおこします。 ◆子どもでは、2歳未満の乳幼児に特に肺炎球菌による感染症にかかるリスクが高いと言われています。 ◆肺炎球菌ワクチンを接種することで、体のなかに肺炎球菌への抵抗力(免疫)ができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆肺炎球菌ワクチンを接種した後、接種部位が赤くなったり、はれたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。いずれも軽く一過性のもので数日中には回復します。 ◆注射したところだけでなく、熱がでたり、刺激に反応しやすくなったりすることがあります。 ◆乳児はいつもよりむずかかったり、眠そうにしたりすることがあります。 ◆きわめてまれに(A)アナフィラキシー、けいれん、(B)血小板減少性紫斑病などの重い病気にかかることもあるともいわれています。
B型肝炎	<ul style="list-style-type: none"> ◆B型肝炎は、B型肝炎ウイルスの感染により起こる肝臓の病気です。 ◆B型肝炎ウイルスへの感染は、一過性の感染で終わる場合と、そのまま感染している状態が続いてしまう場合(この状態をキャリアといいます)があります。キャリアになると慢性肝炎になることがあり、そのうち一部の人では肝硬変や肝がんなど命に関わる病気を引き起こすこともあります。 ◆ワクチンを接種することで、体の中にB型肝炎ウイルスへの抵抗力(免疫)ができます。 ◆免疫ができることで、一過性の肝炎を予防できるだけでなく、キャリアになることを予防でき、まわりの人への感染も防ぐことができます。 ※予防接種を受けても、お子さんの体質や体調によって免疫ができないこともあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆B型肝炎ワクチンを接種した後、接種部位が赤くなったり、はれたり、しこりができたり、痛みを感じたりすることがあります。 ◆注射したところだけでなく、熱がでたり、刺激に反応しやすくなったりすることがあります。 ◆いつもよりむずかかったり、眠そうにしたりすることがあります。 ◆きわめてまれに(A)アナフィラキシー、(C)急性散在性脳脊髄炎などの重い病気にかかることもあるともいわれています。 (C)急性散在性脳脊髄炎:アレルギーによる脳や脊髄に炎症がおこる病気です。熱がでる、頭が重い、けいれんがおこる、意識がはっきりしないなどの症状がみられます。
四種混合ワクチン (DPT-IPV)	<ul style="list-style-type: none"> ◆百日せきは、せきが長く続くことが特徴の病気ですが、小さなお子さんがかかると命にかかわることもあります。 ◆ジフテリアは、口やのどに細菌がとりついて始まりますが、体中に広がると命にかかわることもある病気です。 ◆破傷風は、土の中にいる菌が傷口から入って始まり、病気が進むと体中の筋肉がかたくなってしまいます。重くなると息ができなくなり、命にかかわることもあります。 ◆ポリオは便を通じて感染する病気で、手や足が動かせなくなり、場合によっては一生続くことになってしまいます。 ◆四種混合ワクチンを接種することで、体のなかに百日せき・ジフテリア・破傷風・ポリオへの抵抗力(免疫)ができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆四種混合ワクチンを接種した後、接種部位が赤くなったり、はれたり、しこりができたりすることがあります。 ◆熱がでたり、おなかをこわしたりするほか、鼻水やせき、ぶつぶつがでたり、のどが赤くなる、吐き気がすることもあります。 ◆きわめてまれに(A)アナフィラキシー、けいれん、(B)血小板減少性紫斑病などの重い病気にかかることもあるともいわれています。

<p>BCGワクチン</p>	<p>◆BCG ワクチンは、抵抗力（免疫）の弱い赤ちゃんが結核を発症したり、重い症状の結核になることを防ぐために接種します。</p> <p>◆BCG ワクチンを接種することで、体のなかに結核菌への抵抗力（免疫）ができ、赤ちゃんのうちは免疫を持ち続けられます。</p> <p>◆BCG ワクチンは、二の腕の外側の真ん中あたりに2ヵ所、スタンプを押すように接種します。</p>	<p>◆BCG ワクチンを接種した後、わきの下や足のつけ根など（リンパ節）がはれたり、全身に赤みがでたりすることがあります。</p> <p>◆接種による普通の反応として、3～6週間くらい後、接種個所に赤いぶつぶつや、一部に小さなうみができます。その後、かさぶたになり、接種から3ヶ月後にはなおります。このような反応は特に心配いりませんが、まれに大きなうみになるなど、治療が必要になることもあります。</p> <p>◆ただし、反応がでる時期には注意が必要です。これらの反応が接種後10日以内にでたら、すでに結核菌に感染している可能性があるため、早めに保健福祉課へご連絡ください。</p>
<p>MRワクチン</p>	<p>◆麻しん(M)・風しん(R)は、それぞれのウイルスを口や鼻などから吸いこむことで感染する病気です。うつりやすい病気で、一人がかかると、家族やまわりの人たちに広がってしまうこともあります。</p> <p>◆麻しん（はしか）にかかると、熱やせき、鼻水がでたり、発しんがでたりします。高熱は3～4日で解熱し、次第に発しんも消失します。まれですが、重くなると命にかかわることもあります。</p> <p>◆風しんにかかると熱がでたり、発しんがでたりします。</p> <p>◆MR ワクチンを接種することで、体のなかに麻しん・風しんへの抵抗力（免疫）ができます。</p>	<p>◆MR ワクチンを接種した後、熱がでたり、ぶつぶつがでたりすることがあります。また、接種部位が赤くなったり、はれたりすることもあります。</p> <p>◆きわめてまれに（A）アナフィラキシー、けいれん、（B）血小板減少性紫斑病、脳炎などの重い病気にかかるともいわれています。</p>
<p>水痘ワクチン</p>	<p>◆水痘は、ウイルスにふれたり、ウイルスを口や鼻などから吸いこんだりすることで感染する病気です。うつりやすい病気で、一人がかかると、家族やまわりの人たちに広がってしまうこともあります。</p> <p>◆水痘にかかると、熱がでたり、なかに水が入ったぶつぶつがでたりします。まれですが、重くなると命にかかわることもあります。</p> <p>◆水痘ワクチンを接種することで、体のなかに水痘への抵抗力（免疫）ができます。</p> <p>◆水痘ワクチンを2回接種すれば、水痘にかかることもほとんどなくなるといわれています。</p>	<p>◆健康な子どもや大人では、ほとんど体の変化はみられませんが、ときに熱がでたり、発しんが見られることがあります。</p> <p>◆まれに接種部位が赤くなったり、はれたり、かたくなったりしますが、数日で消えます。</p> <p>◆きわめてまれに（A）アナフィラキシー、（B）血小板減少性紫斑病などの重い病気にかかるともいわれています。</p>
<p>日本脳炎ワクチン</p>	<p>◆日本脳炎は、蚊によって運ばれるウイルスが原因の病気です。多くの場合、症状はでませんが、まれに脳炎になることがあります。脳炎になると、けいれんがでるなど重症になり、2～4割が亡くなってしまうといわれています。</p> <p>◆日本脳炎ワクチンを接種することで、体のなかに日本脳炎への抵抗力（免疫）ができます。</p> <p>◆このワクチンは、一般には3歳になってから接種し始め、3回の注射をします。また9歳になってからも1回の注射をします。</p>	<p>◆日本脳炎ワクチンを接種した後、熱がでたり、せきや鼻水がでたりします。</p> <p>◆接種部位が赤くなることがあります。</p> <p>◆きわめてまれに（A）アナフィラキシー、（C）急性散在性脳脊髄炎、けいれん、（B）血小板減少性紫斑病、脳炎などの重い病気にかかるともいわれています。</p>

予防接種後健康被害救済制度について

予防接種は感染症を防ぐために重要なものですが、極めてまれに健康被害の発生がみられます。万が一、定期の予防接種による健康被害が発生した場合には、救済給付を行うための制度があります。保健福祉課までご相談ください。